兵庫県

産業労働常任委員会資料

令和８年11月16日

科学技術の振興について

産業労働部
新産業課（科学振興官）

目 次

Ⅰ　令和８年度 新産業課（科学振興官）施策体系表･･･ 3

Ⅱ　県内における研究機関等の状況･･･････････････････ 4

Ⅲ　科学技術の振興･･･････････････････････････････ 5

1　光科学の振興･･･････････････････････････････ 5

2　計算科学の振興･･･････････････････････････13

3　イノベーション創出に向けたプロジェクトの推進････････21

4　ひょうご科学技術協会を通じた科学技術活動の支援･･･23

Ⅰ 令和８年度 新産業課（科学振興官）施策体系表

科学技術基盤を活用した技術革新支援に関する基本方向（ひょうご経済・雇用戦略(R5～9年度)）

戦略①　科学技術基盤の産業利用推進
県内に立地する科学技術基盤を活用し、企業の技術高度化に取り組んでいく。

戦略②　先端技術人材の集積と育成支援
先端技術人材の集積に向け、関係機関と連携した学術研究への助成や人材育成に取り組んでいく。

科学技術の振興	1　光科学の振興	（１）放射光の産業利用推進 （２）県立先端科学技術支援センターによる研究支援
	2　計算科学の振興	（１）スーパーコンピュータの産業利用推進 （２）スーパーコンピューティング研究教育拠点（COE）の形成
	3　イノベーション創出に向けたプロジェクトの推進	（１）次世代電池・半導体の技術開発の促進
	4　ひょうご科学技術協会を通じた科学技術活動の支援	（１）学術的研究の促進 （２）科学技術の普及・啓発の推進 （３）地域産業の技術開発力の強化・育成

Ⅱ 県内における研究機関等の状況

〇県内には、我が国の知の基礎と位置付けられる**世界最高レベルの科学技術基盤が複数立地**※

〇これらが求心力となり、**播磨・神戸を中心に研究機関や人材が集積**し、地域活性化に貢献

〇新産業・イノベーションの創出、さらなる地域活性化に向け、**県内企業の科学技術基盤の利用を推進**

※共用促進法に基づく「特定先端大型研究施設」5施設のうち3施設が県内に立地(R8年4月時点)

播磨科学公園都市
― 光科学 ―



大型放射光施設「SPring-8」
X線自由電子ﾚｰｻﾞｰ施設「SACLA」



兵庫県立大学ニュースバル放射光施設



神戸医療産業都市
― 計算科学 ―



ｽｰﾊﾟｰｺﾝﾋﾟｭｰﾀ「富岳」



FOCUSスパコン

県内における研究機関等の状況	
大 学 等 （31法人）	神戸大学、兵庫県立大学、関西学院大学、 甲南大学　など
公的研究機関等 （47法人）	（国研）理化学研究所 放射光科学研究センター、 計算科学研究センター（R-CCS）、 （公財）高輝度光科学研究センター（JASRI）、 （一財）高度情報科学技術研究機構（RIST）など
研究支援機関等 （11法人）	（公財）ひょうご科学技術協会、 （公財）計算科学振興財団（FOCUS）、 （公財）新産業創造研究機構（NIRO）など
民間企業 （410法人）	川崎重工業㈱、㈱神戸製鋼所、シスメックス㈱、 住友ゴム工業㈱、三菱重工業㈱　など

※大学等、民間企業は、研究機能を有するもの

（出典）県産業労働部新産業課調べ

Ⅲ 科学技術の振興

1　光科学の振興

(1)放射光の産業利用推進

① 大型放射光施設「SPring-８」の概要

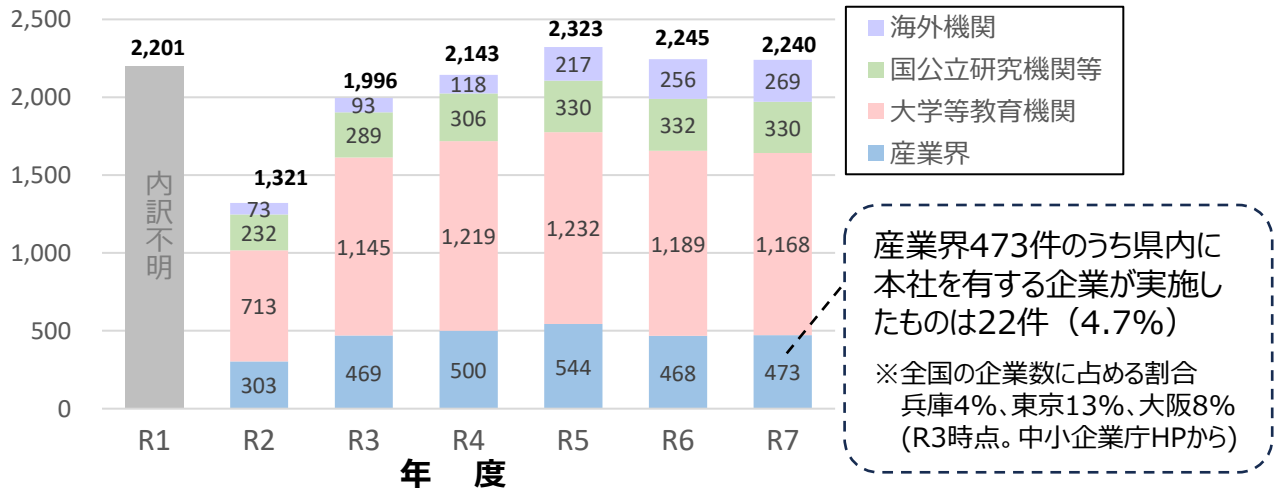
○世界最高水準の放射光を利用できる大型の実験施設で、**物質の性質をナノレベルで観察することが可能**
○学術研究のみならず、金属・ゴム等の材料、半導体、電池、製薬、食品など幅広い分野で産業界でも活用

＜施設概要＞
・共用開始：平成９(1997)年10月　　・所 在 地：佐用町光都
・設 置 者：国立研究開発法人 理化学研究所
・国 予 算：159億円（R8当初予算）※X線自由電子レーザー施設「SACLA」を含む
（建設費：約1,100億円）
・稼働状況：稼働ビームライン数：56本（共用26本、専用10本、理研20本）
※最大62本まで設置可

SACLA・・・SPring-8の光の10億倍という非常に明るい「X線自由電子レーザー」で、物質の極めて速い動きや変化の仕組みを原子レベルで解明できる施設。平成24(2012)年3月共用開始



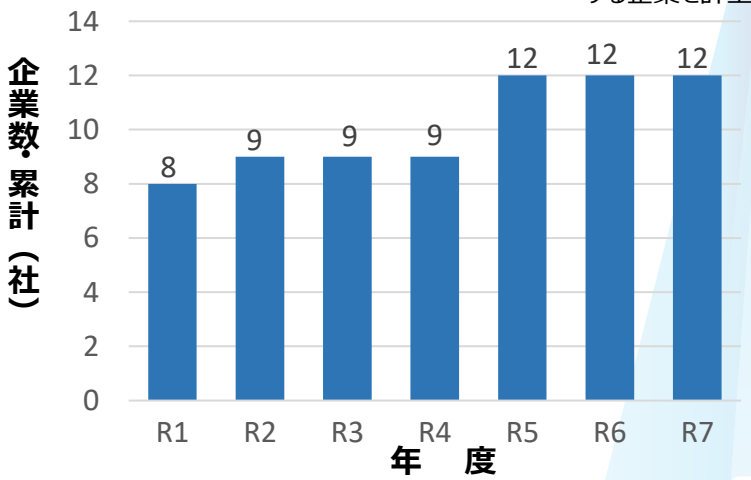
SPring-8共用ビームライン、専用ビームライン　実施機関別利用研究実施課題数（R1～7年度）



（出典）SPring-８ホームページの主要統計データをもとに作成

SPring-8県内利用企業数（R1年度以降の累計）

※県内に本社を有する企業を計上

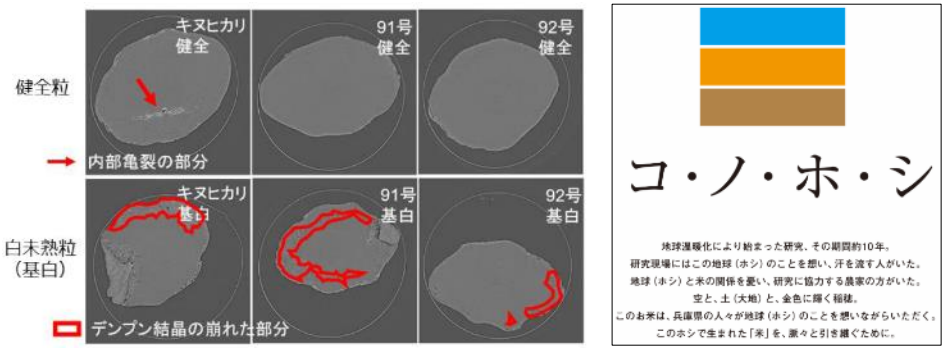


（出典）SPring-８User Informationの実施課題一覧をもとに作成

SPring-８ 研究事例①

地球温暖化に強い、兵庫県発おいしい米の新品種の優位性証明

- 世界最高峰の測定・識別能力をもつSPring-8のX線CTを使用することで、非破壊で米粒全体をスキャニングし、内部亀裂の程度やデンプンの詰まり具合を確認。
- その結果、既存品種「キヌヒカリ」と新品種候補「91号」に比べ、「92号」が内部亀裂の発生が少なく、デンプンの結晶の崩れも軽かったことから、優位性が明らかとなった。



（出典）「第23回ひょうごSPring-8賞」受賞研究紹介資料

SPring-８ 研究事例②

イメージングXAFSによる鋼材表面の腐食反応解析

- 通常の放射光解析による、さびのイメージング(画像化)解析は困難
- しかし、SPring-８のイメージングX線吸収微細構造(XAFS[ザフス])計測で、腐食前と腐食途中の鋼材を分析し、得られた構造データで機械学習を行うことにより、24時間後の腐食状態予測に成功
- 高耐久性材料の効率的な開発が期待される

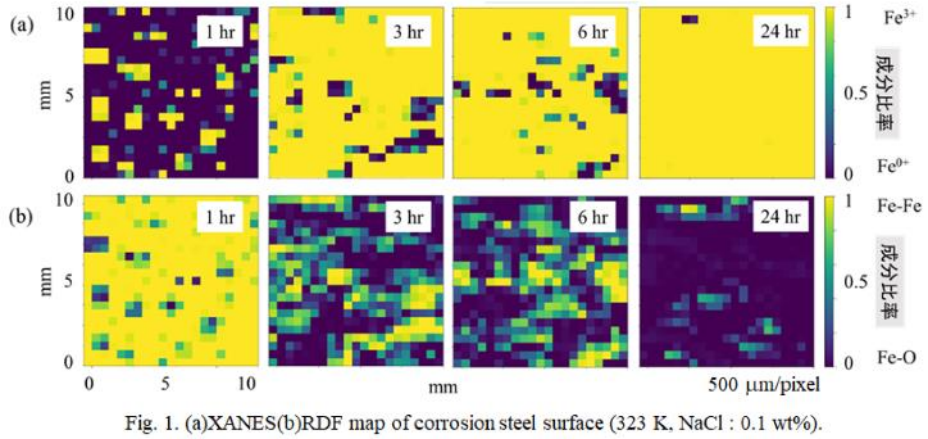


Fig. 1. (a)XANES(b)RDF map of corrosion steel surface (323 K, NaCl : 0.1 wt%).

（出典）SPring-８ホームページ中の「第18回 SPring-8産業利用報告会」(R3.9)の資料をもとに作成

【トピックス】SPring-８の高度化（SPring-8-Ⅱ）計画



○文部科学省・理化学研究所は、SPring-8の高度化に向けて、令和６年度にプロトタイプを製作

○令和７年度から４年間で整備し、**令和11年度中のSPring-8-Ⅱ共用開始**を目指している

１　現　状

(1) 老朽化するSPring-8

① SPring-8は共用開始から25年以上が経過

② 老朽化が進行し、修繕・保守コストが増大

(2) 放射光施設を取り巻く国際情勢の変化

① 世界では、施設の高度化や新規建設が進行中

※欧州、米国では施設を高度化、中国は新規建設

２　高度化のポイント

(1) 世界トップ性能

① 放射光の輝度が現状の約100倍に向上

② 高精細なデータを短時間で取得可能

(2) 省エネルギー化

① 加速エネルギーの低減（８ＧｅＶ ⇒ ６ＧｅＶ）

② 消費電力はSPring-8の約６割程度にまで削減

全体で500億円の見込み(国費)

R6当初:3億円　R6補正:170億円　R7補正:154億円

R6(2024)年度 → R7(2025)年度 → R10(2028)年度 → R11(2029)年度

・プロジェクト開始
・プロトタイプ製作 等

・整備、建設期間（４年間）

運転停止期間
約１年（R9.8～）

・調整／試験利用

・SPring-8-Ⅱ共用開始

② 放射光の産業利用推進（R8当初予算：35,395千円）

〇放射光産業利用の推進拠点として、研究室や分析装置を備える**「兵庫県放射光研究センター」**を平成20（2008）年１月に開設（令和６年度まで同センターで県専用ビームラインを運営）

〇令和７年度から、同センターに、技術的な課題を抱える県内企業にSPring-8の活用提案等を行う**「光科学応用テクニカルアドバイザー」**を配置し、新規ユーザーを開拓

〇令和８年度からは、**「放射光産業利用試行事業補助金」**を創設し、放射光を利用したことがない県内企業に対し、試行的な利用を促進



兵庫県放射光研究センター（たつの市・SPring-8敷地内）

光科学応用テクニカルアドバイザー（R7年度～）

■配置状況：３人（R8.4現在）※週１回程度活動
（略歴）元兵庫県立大学教授、元県立工業技術センター研究員、(国研)量子科学技術研究開発機構非常勤職員

■制度周知：約1,000社（兵庫工業会など）（R7年度実績）

■面談企業数：R7年度　24社
R8年度（９月末時点）４社・2団体

放射光産業利用試行事業補助金（R8年度～）

■対象産業：新ｴﾈﾙｷﾞｰ・環境／航空産業／ﾛﾎﾞｯﾄ等／健康医療／半導体

■対象者：SPring-8やニュースバルといった放射光施設をはじめて利用する県内企業

■対象経費：SPring-8やニュースバルの使用料等

■補 助 率：１／２（上限50万円）

③ ひょうごSPring-８賞の実施（R8当初予算：664千円）

SPring-8の認知度向上と産業利用促進を図るため、SPring-8における産業利用研究の中から、**社会経済全般の発展に寄与することが期待される成果をあげた研究者を顕彰**（平成15(2003)年度～）

【表彰主体】ひょうごSPring-8賞実行委員会
（構成団体：兵庫県、兵庫県立大学、(公財)ひょうご科学技術協会、SPring-8利用推進協議会）

令和８年度（第24回）受賞テーマ

受賞者	研究テーマ・受賞理由概要
株式会社キャタラー 山岸 弘奈 氏	カーボンニュートラル社会に向けたNOx浄化メカニズムに基づく低環境負荷触媒の開発 • 自動車の排気ガスを触媒で浄化する際に発生する環境負荷の高い物質を低減させる方法について研究 • 浄化性能向上やレアメタル使用量低減に貢献し、水素など次世代燃料にも応用可能
株式会社メニコン 伊藤　恵利　氏	複数手法の組み合わせによる快適なつけ心地を有するコンタクトレンズ表面の構造解析手法の構築 • SPring-8など複数の放射光施設を相補的に利用し、コンタクトレンズ表面の構造を解析 • 快適な装用感という「感覚的・定性的」な評価を、「客観的・定量的」な評価・解析につなげ、つけ心地の良い新製品の開発に貢献

(2)県立先端科学技術支援センターによる研究支援（R8当初予算：88,289千円）

〇播磨科学公園都市で展開される研究活動を支援するため、**「県立先端科学技術支援センター」**において宿泊施設、会議室などを提供

〇研究者や技術者などに利用されるほか、地域交流の場としても活用

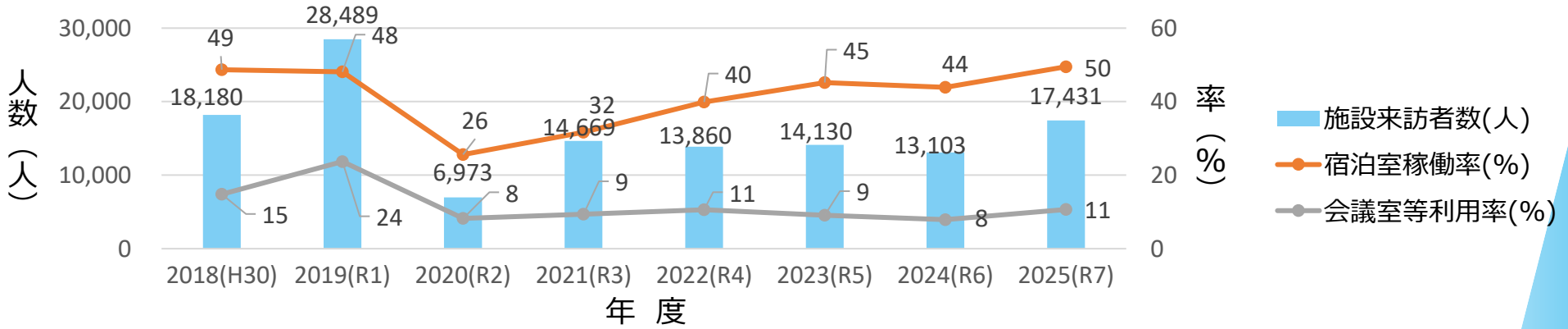
＜施設概要＞

・開設年月：平成５(1993)年４月
・所 在 地：上郡町光都
・規　　模：地上３階建、延床面積7,396㎡
・内　　容：大ホール、会議室、宿泊施設、レストラン 等
・指定管理者：国際ライフパートナー(株)
（令和５～９年度（５年間））
・ネーミングライツスポンサー：ケミプロ化成(株)
（ネーミングライツ料：66万円/年
期間：令和7年8月～10年3月）






＜利用実績＞



【トピックス】 光科学分野の人材育成

兵庫県立大学における**国内有数の放射光施設での研究**を通し、最先端の材料開発等に関わる人材を育成

高度産業科学技術研究所

兵庫県立大学の附置研究所として平成６(1994)年４月に開設（教員は大学院工学研究科にも所属）

光科学技術を中心とした先端的科学技術の研究を推進するとともに、県内企業等との共同研究により新産業技術基盤の創出を図り、産業を支援

国内有数の放射光施設「ニュースバル」を有し、放射光を利用した研究開発を学ぶことができる





（出典）兵庫県立大学のホームページから

ニュースバル放射光施設

SPring-8の敷地内にあり、兵庫県立大学が、平成12(2000)年から運営。稼働中のビームラインは９本

SPring-8が硬X線領域の放射光を発生させるのに対して、ニュースバルは軟X線領域の放射光を発生し、相補的な利用が可能。炭素等の軽元素を中心とした材料開発・加工に適しており、半導体材料・装置開発、リチウムイオン電池の電極材料、金属微細加工などの分野での産業界の研究開発にも貢献





（出典）ニュースバル放射光施設のホームページから

2　計算科学の振興

(1)スーパーコンピュータの産業利用推進

① スーパーコンピュータ「富岳」の概要

○**世界最高水準の性能と汎用性を持つスーパーコンピュータ**で、医療・創薬、防災・減災、エネルギー、素材開発など、幅広い分野で成果創出の取組が進む

○共用開始前から新型コロナウイルス感染症対策に貢献する研究開発も進められてきた

＜施設概要＞

・共用開始：令和３年３月　　・所 在 地 ：神戸市中央区港島南町

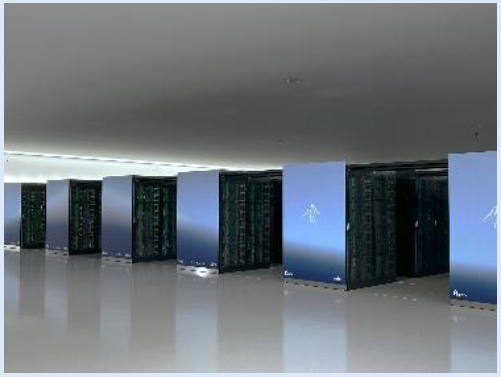
・設 置 者 ：国立研究開発法人 理化学研究所

・国 予 算 ：167億円（R8当初予算）

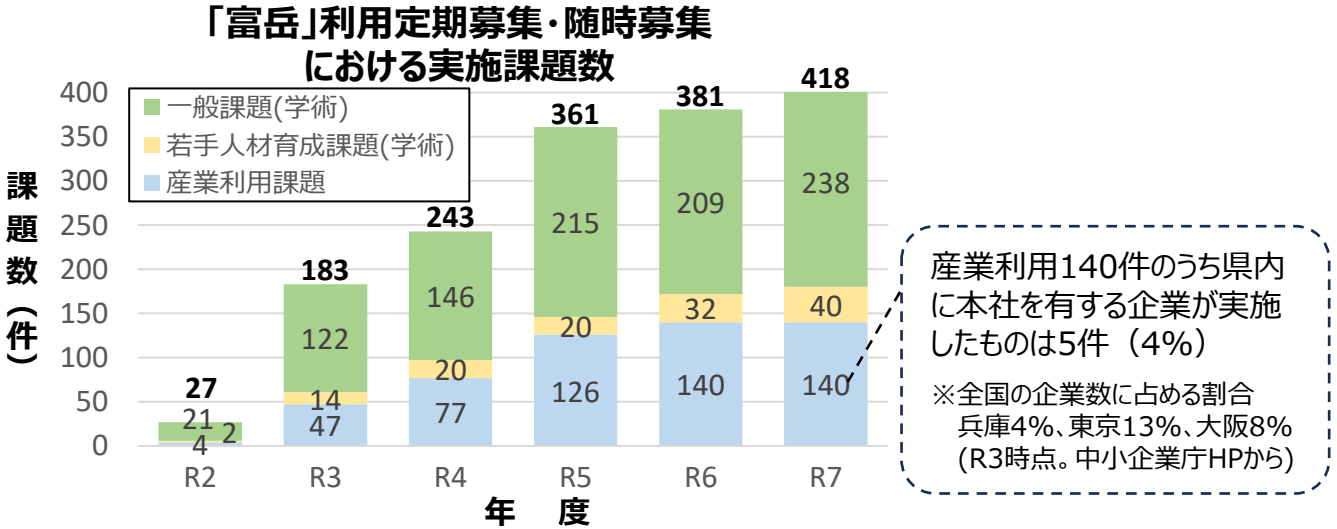
※「富岳」を中核に大学等のスパコンをネットワーク化して活用するHPCIの予算を含む

（開発費：約1,300億円［うち国費1,100億円、民間200億円］）

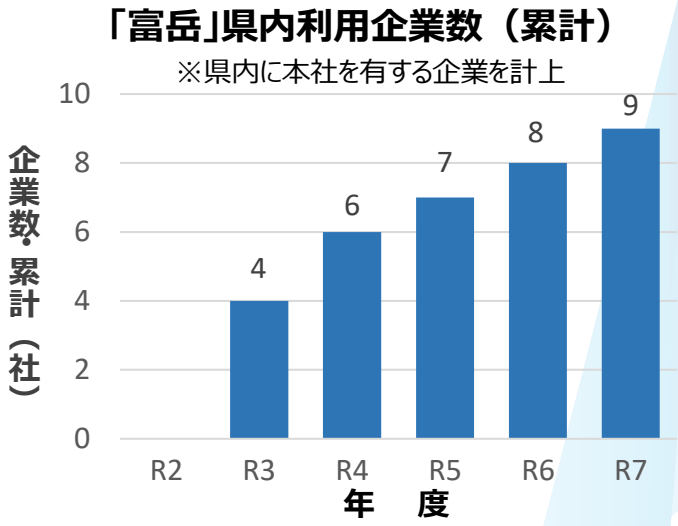
・演算性能：442PFLOPS ※1P(ペタ) は千兆。FLOPS(フロップス)は１秒当たりの浮動小数点演算の回数
※性能ランキング「TOP500」（R8.6）での評価



スーパーコンピュータ「富岳」



（出典）HPCI主要統計情報をもとに作成



（出典）HPCI利用報告書データベース年度別一覧をもとに作成

富岳　研究事例①

最先端研究施設を活用した次世代オールシーズンタイヤの開発

・2024年10月、あらゆる路面にシンクロする次世代オールシーズンタイヤ「シンクロウェザー」が発売

・水や温度に反応し、路面状態に合わせて、ゴム自ら性質が変化する「アクティブトレッド」を搭載

・「富岳」の産業利用枠を活用したゴム材料のシミュレーション等により開発を進めた



（出典）住友ゴム工業株式会社のホームページ
2023年12月期決算説明会資料（R6.2.14）から

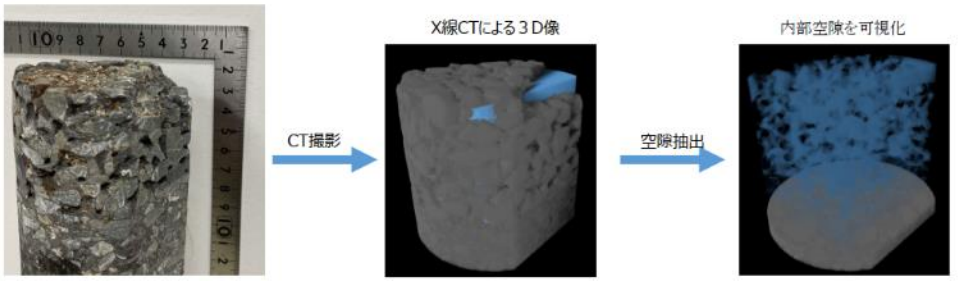
富岳　研究事例②

「SPring-８」と「富岳」の連携による社会インフラ老朽化評価

・SPring-8（X線CT）と富岳（大規模画像解析・シミュレーション）の連携で、リアルな構造物を理解し、科学的にその寿命を予測

・構造物の寿命（更新時期）の科学的予測によって、社会インフラの安全性や信頼性を確保しつつ、効果的・効率的な予算投入が可能

・コンクリート、アスファルトにおいて実施中



※外観検査では分からない内部空隙をミクロオーダーで可視化。その情報をもとに、ストレス・破壊進展などの劣化予測につなげていくことが可能

（出典）関西道路研究会のホームページ
阪神高速道路株式会社　講演資料（R6.7.29）から

【トピックス】「富岳ＮＥＸＴ」の開発・整備

文部科学省・理化学研究所は**「富岳NEXT」**（「富岳」の次世代となる新たなフラッグシップシステム）の開発・整備に向けて、令和６年度から前倒しでプロジェクトを開始し、遅くとも**令和12年度からの運用開始**を目指す

1　近年の情勢変化

(1) 生成AIの技術革新により計算資源の需要が急拡大
(2) GPUなどの加速部を活用した計算手法が主流に
(3) 世界各国で「富岳」を上回る性能の計算機の開発、高度化が加速
(4) AIとシミュレーションなどを組み合わせた取組の重要性が増大

2　システム概要

(1) CPUに加えて、GPUなどの加速部を導入
(2) シミュレーションは、「富岳」の５～10倍以上の実効性能
(3) AIの学習・推論は世界最高水準の性能（利用環境を提供）
※実行性能50EFLOPS以上
(4) 電力性能の大幅向上により、上記計算環境を提供

← R7(2025)年度 ～ R11(2029)年度 → R12(2030)年度～

R7当初:8億円　R7補正:373億円　R8当初:10億円

システム開発（基本設計・詳細設計・試作等）
施設、用地整備（基本調査・詳細調査等）
整備（製造・搬入・検収等）
技術評価・研究開発

「富岳NEXT」共用開始



② スーパーコンピュータの産業利用推進（R8当初予算：93,265千円〔うち国庫26,068千円〕）

スーパーコンピュータ「富岳」の立地メリットを活かし、**(公財)計算科学振興財団**を通じて、同財団が運営する**「高度計算科学研究支援センター」**を拠点に、スーパーコンピュータの産業利用・普及啓発・人材育成・研究支援に関する各種事業を展開

(公財)計算科学振興財団

「富岳」の前身である「京」をはじめとするスーパーコンピュータの産業利用の促進及び普及啓発を目的に、県・神戸市・神戸商工会議所の連携協力により設立

・開　　設：平成20(2008)年１月
・出 捐 金：101,000 千円
　県：50,000千円
　神戸市：50,000千円
　神戸商工会議所：1,000千円

FOCUS
FOUNDATION FOR COMPUTATIONAL SCIENCE

高度計算科学研究支援センター

「京」の隣接地に平成23(2011)年４月に整備。(公財)計算科学振興財団が運営し、同センターを拠点に産業界向けFOCUSスパコンの活用による各種支援や人材育成を行い、高度シミュレーション技術の産業利用を促進



ｽｰﾊﾟｰｺﾝﾋﾟｭｰﾀ「富岳」施設

計算科学センタービル
［３～７Ｆ］
兵庫県立大学大学院
（情報科学研究科、大学連携拠点）
［１～２Ｆ］
高度計算科学研究支援センター
（財団事務局、FOCUSスパコン）

a スーパーコンピュータの産業利用への環境整備

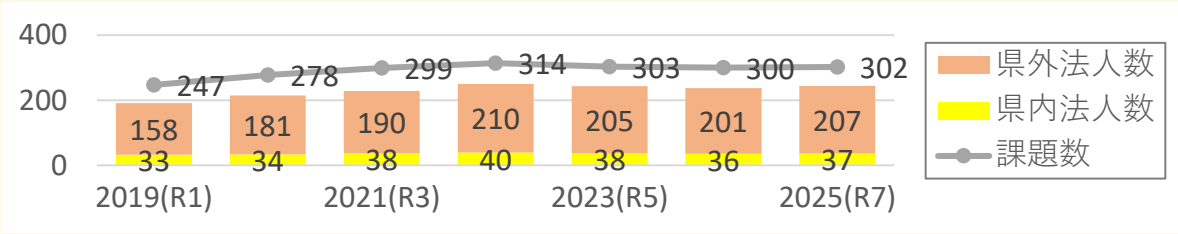
(a) FOCUSスパコンの利用提供

産業界のスパコン利用企業層の拡大を目的とする公的スーパーコンピュータ「FOCUSスパコン」を企業等の利用に提供（平成23(2011)年４月共用開始）

〔演算性能〕692TFLOPS（ﾃﾗﾌﾛｯﾌﾟｽ）（令和７年度末時点の理論値）

※FLOPS：１秒当たりの浮動小数点演算の回数　※「富岳」の約1/640

〔利用実績〕





FOCUSスパコン

※県内法人の利用は約２割

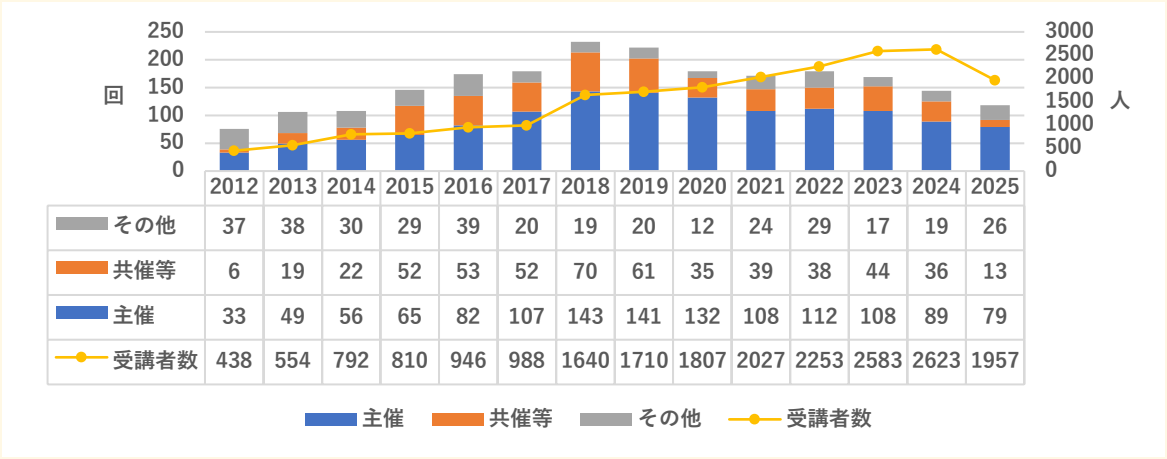
※「富岳」利用法人の約８割はFOCUS関係法人

b シミュレーション技術の普及

(a) 実践的な企業技術者の育成

・FOCUSスパコン利用講習会やアプリ講習会、並列化講習会等を実施

・令和８年度から、デジタルインテリジェンス活用促進事業として、CAE研修やAI等に関するセミナーを開催



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
その他	37	38	30	29	39	20	19	20	12	24	29	17	19	26
共催等	6	19	22	52	53	52	70	61	35	39	38	44	36	13
主催	33	49	56	65	82	107	143	141	132	108	112	108	89	79
受講者数	438	554	792	810	946	988	1640	1710	1807	2027	2253	2583	2623	1957



講習会の様子（FOCUSスパコン直結の端末を完備）

(2)スーパーコンピューティング研究教育拠点(COE)の形成（R8当初予算：50,000千円）

県と神戸市が共同で、理化学研究所による「富岳」を活用した地元貢献や社会課題の解決に資する最先端研究、人材育成活動等を支援し、**「富岳」を中核とする計算科学分野の研究教育拠点（COE）の形成**を推進
（第１期：平成23年度～平成27年度（５年間）、第２期：平成29年度～令和６年度（８年間））

【事業期間】 令和７年度～令和11年度（５年間）
【助 成 額】 ５年総額 ５億円（県：神戸市＝１：１）
【選定方法】 理化学研究所計算科学研究センター所属の研究グループが応募する研究課題及び人材育成・アウトリーチ事業の中から、外部有識者を含む審査委員会の審査を経て決定

＜採択課題等＞

区分	番号	研究課題名／事業名
研究課題	1	創薬DXプラットフォームの構築と応用
	2	ポスト富岳世代に向けた都市防災・社会システム統合デジタルツイン基盤の研究開発
	3	量子HPCアプリケーション連携ハブ
	4	ハイパフォーマンスコンピューティングと実験データの融合による動的構造生物学
人材育成等事業	5	AI for Scienceを担う学際的・国際的な計算科学人材の育成

＜成果例＞

●神戸駅周辺地域の垂直避難に関する検証(R6年度)

垂直避難を行った場合の避難者受入れ施設の収容人数や、避難にかかる時間の検証を行い、避難時間の短縮や、混雑の緩和が可能な箇所があることがわかった。現在、広域避難の検証を検討中



●KOBE HPC(高性能計算)サマースクールの開催

学生・若手研究者を対象に、並列計算機を使いこなすためのプログラミング手法の基礎を演習を交えて学習するサマースクールを開催（神戸大学、兵庫県立大学と共催）



【トピックス】 計算科学分野をはじめとする科学技術人材の育成

県内の**SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校**や**兵庫県立大学**において、科学技術を駆使し、新たな社会価値の創造に貢献できる人材を育成

県教育委員会による理数教育の推進　～兵庫「咲いテク」（サイエンス＆テクノロジー）事業～

県立神戸高等学校が、平成22（2010）年度に文部科学省からSSH事業のコアSSH（地域の中核的拠点形成）に採択されたことを機に、高校・大学・企業・研究機関等が連携して科学技術人材の育成を図ることを目的として、県内のSSH指定校と県教育委員会等で兵庫「咲いテク」運営指導委員会を設置

同委員会主催で、大学・企業・研究機関等も参加する研究発表会「サイエンスフェアin兵庫」や、英語運用能力の向上を図る研究発表会「Science Conference」等を毎年開催

サイエンスフェアでは、(公財)ひょうご科学技術協会が関係団体と協力して、大学生・大学院生が高校生に研究の魅力を伝えるブースを出展



サイエンスフェアの様子

（出典）県教育委員会のホームページから

兵庫県立大学大学院 情報科学研究科

スーパーコンピュータ「京」（現「富岳」）の共用開始の前年である平成23（2011）年、「京」と同じ敷地内に、兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科（現情報科学研究科）を開設

現在、データ科学、計算科学、情報セキュリティ科学、健康医療科学の４つの分野とそれらの融合的な研究分野において、世界的にも優れた研究成果をあげている研究者が研究と教育を実施

（出典）兵庫県立大学のホームページから



神戸情報科学キャンパス



大規模計算機システム

3　イノベーション創出に向けたプロジェクトの推進

(1)次世代電池・半導体の技術開発の促進（R8当初予算：1,375千円）

脱炭素社会やデジタル社会の実現に向け、県内に立地する科学技術基盤（SPring-8、「富岳」等）を活用し、

電池・半導体分野での技術開発を促進

① 次世代電池・半導体技術交流セミナーの開催（R7年度～）

電池・半導体産業の将来性や技術動向などの最新情報を発信・共有し、産官学のつながりの強化を図ることにより、企業の技術開発を後押し

【実績】 日　時：令和８年１月19日（月）
場　所：ホテル日航姫路
内　容：講演　車載用電池リーディングカンパニーPPESの企業戦略
先端半導体技術が切り拓く世界　など
交流会・名刺交換会
参加者：電池の部　47人
半導体の部　46人



技術交流セミナーの様子

② 半導体教育講座の開催（R7年度～）

半導体分野に早い段階から興味を持ってもらえるよう、企業等と連携して、高校生などを対象とした教育講座を開催

【実績】 日　時：令和８年６月１７日（水）
場　所：兵庫県立大学附属高等学校（上郡町）
講　師：東芝デバイス＆ストレージ(株)　姫路半導体工場
受講者：同校２年生32人
ｱﾝｹｰﾄ結果：半導体や電子工学に興味を持ちましたか？
とても興味を持った37%、少し興味を持った60%、興味なし3%



半導体教育講座の様子

4　ひょうご科学技術協会を通じた科学技術活動の支援

県内における科学技術振興の中核的機構である（公財)ひょうご科学技術協会（事務所:県庁内、姫路、たつの)を通じて、学術的研究への助成や次世代を担う青少年等への科学技術の普及・啓発、地域産業の技術高度化促進など、各種の科学技術活動を展開（R8当初予算：24,149千円［県派遣職員人件費］）

(1)学術的研究の促進

① 学術研究助成事業（H5年度～）

基礎的な研究から応用的・実用的な研究、若手研究者による萌芽的研究まで、県内の研究者等が行う独創性・発展性・先駆性のある研究に対して助成

区　分	内　　容
対 象 者	県内に在勤・在学または在住する研究者・技術者
対象分野	医学・薬学・看護系 ／ 生命科学・農学系 ／ 理学系 ／ 工学・情報・学際系
助 成 額	100万円以内／件
助成実績	令和７年度：33件　　令和８年度：30件
研究テーマ例	造影剤不要の膀胱癌診断を目指した深層学習拡散強調MRIの臨床応用 分子設計と構造集積化による高電圧有機正極の創出と次世代二次電池への応用　など

(2)科学技術の普及・啓発の推進

① ひょうご科学技術トピックスセミナーの開催（H5年度～）

科学技術の各分野における第一人者を講師に招き、最先端の科学技術をわかりやすく解説する「ひょうご科学技術トピックスセミナー」を、広く一般県民を対象に開催

【実績】令和７年度：極域海洋の生物地球化学研究（参加者71人）
令和８年度：令和９年１月開催予定



トピックスセミナーの様子

② サイエンスボランティア支援事業（H15年度～）

理科教師ＯＢ等が行う、小・中学生向け実験教室など科学学習分野に関するボランティア活動に対し助成金を交付
（１件につき20万円を限度）
【実績】令和７年度：９件、1,143千円、1,744人
令和８年度：４件、　597千円、　224人
(助成金額、参加者数は見込み)


小型望遠鏡製作と星の観察会


LEDプレート製作

(3)地域産業の技術開発力の強化・育成

① 企業・大学院連携研究事業（H26年度～）

県内大学の大学院生の資質向上や県内企業の活性化、技術の向上を図るため、大学院生が行う県内企業との産学共同研究を支援（県内中小企業との研究: １件につき30万円を限度、県内大企業との研究: １件につき15万円を限度）
【実績】令和７年度：県内５大学７テーマ、1,950千円
令和８年度：県内４大学９テーマ、2,100千円

② 技術高度化研究開発支援助成事業（H5年度～）

播磨科学公園都市を有する播磨地域に事業所をもつ中小企業等が、新分野進出や新事業創出を図るために取り組む新技術・新製品の研究開発事業に対し、助成金を交付（助成率1/2、１件につき150万円を限度）
【実績】令和７年度：５件、5,000千円
令和８年度：５件、5,000千円

兵庫県